

(様式1)

令和6年度指定管理者による公の施設の管理状況評価表

1 施設名 (所管課)
富山県五福公園 都市計画課

2 施設所在地
富山市五福

3 施設設置年度
昭和33 年度

4 設置目的
昭和33年に初めて富山県で開催された国民体育大会にあわせて整備された運動公園

5 施設概要
敷地面積：15.6ha
主な施設
・県営富山野球場：19,700㎡ 収容人数25,000人
・陸上競技場：26,600㎡ 400mトラック8コース
・野球広場：20,800㎡ コート数2面
・スポーツ広場：12,100㎡ クレイ舗装

6 指定管理者
公益財団法人富山県民福祉公園

7 指定期間
3 年
令和5年4月1日 ~ 令和8年3月31日

8 利用者数及び利用（使用）料金収入の状況

(1) 利用者数（人） ※この他、参考となる指標があれば追加

R2	R3	R4	R5	R6
73,176	95,233	130,796	161,991	174,478

(2) 利用（使用）料金収入（千円）

R2	R3	R4	R5	R6
3,519	3,756	3,658	4,840	5,078

(3) 利用料金収入見込み額（利用料金制導入施設の場合）

R2	R3	R4	R5	R6
5,275	5,275	4,357	4,658	4,721

9 評価項目

(1) 利用者数・収入の増減に対する評価

・利用者数は令和5年度比107.7% (12,487人増)、有料公園施設の利用料金収入は令和5年度比104.9% (238千円増)であった。
・天候が安定しない時期があったものの、予定された大会等がほぼ順調に開催できたことから、利用者数及び利用料金収入が増加した。

(2) サービス向上に向けた取組み

・「五福公園まちなかまつり」をはじめ、「サクラLIVE」や「寄せ植え教室(春・秋)」などのイベントを開催したほか、イチョウ並木のライトアップを行った。
・富山県のがまち・わがみち事業に登録し、県道富山高岡線沿いの歩道清掃や、大型プランターへの季節の花々の植栽管理を行った。

(3) 利用促進（収入増）に向けた取組み

・利用者ニーズに合わせ、供用日、供用時間を弾力的に運用した。
・陸上競技場個人利用の4時間利用単位を導入した。

(4) 利用者のニーズ把握や苦情への対応

① アンケート結果

実施方法	①楽しい寄せ植え教室（4月21日、11月4日） ②五福公園まちなかまつり（6月25日）
回答者数	①62人 ②61人
結果	①ほとんどが富山市内の方で、ご年配の女性が多かった。 ②ファミリー層の参加が多く「これからも続けてほしい」や、「楽しいイベントに参加できてよかった」という意見があった。
結果を踏まえた改善事項	次期開催を望む意見が寄せられたため、引き続き参加者に楽しんでいただけるよう努める。

② その他利用者の声を反映させる取組み

・競技団体等から組織する「五福公園運営会議」を開催し、アンケートや公園利用者数等をもとに管理運営について協議した。

③ 主な苦情と対応

・駐車場に無断駐車している学生が多い。⇒大学へ引き続きの学生指導を依頼した。
・オブジェ「波」の噴水稼働時間の変更。⇒稼働時間の変更(間隔の短縮及び噴水稼働延長)は供給水量上できないことを説明して、理解された。

(5) 個人情報保護の取組み

個人情報に関する指針を定め、職員に周知を図っており、適切な個人情報保護が図られている。

(6) 関係団体との連携

公園に隣接する鶴島町の生産組合と共同で排水路の清掃を実施した。

(7) 施設・設備の維持管理

適切に維持管理を行っている。

(8) 危機管理・安全管理などの取組み

非常時の緊急連絡網、非常管理マニュアルを作成するなど、適切に危機管理・安全管理に取り組んでいる。

10 所管課の管理運営確認状況

- ①定期報告の受理
- ②維持管理・運営状況等の担当職員現地確認
- ③個人情報に関するトラブルの有無
- ④危機管理・安全管理上のトラブルの有無

有/無	回数(有の場合)
有	12
有	6
無	-
無	-

【トラブルの具体的内容と対応】

-

11 今後の課題等 (収入確保、経費削減、サービス維持向上等の観点から今後の課題を記載)

・「五福公園まちなかまつり」をはじめ、「サクラLIVE」やイチョウ並木のライトアップなど、幅広い年齢層の利用促進とサービス向上に積極的に取り組んでいる。
・公募設置管理制度(Park-PFI)により飲食店が設置された。Park-PFI事業者との連携による公園全体のさらなる賑わいづくりに期待したい。
・施設や設備、備品の老朽化が進行しているため、コストバランスを考慮しながらも、利用者の安全を最優先に捉え、優先順位をつけた計画的な修繕・更新作業の実施が求められる。
・今後もアンケート調査などを活用し、利用者ニーズの的確な把握を継続するとともに、合宿の誘致や各種イベントでの利用機会増加を図るなど、積極的なPR活動に努めてもらいたい。